

2012.7



神戸市シルバー人材センター  
Kobe City Silver Human Resource Center

# シルバー こうべ

編集発行：(公財)神戸いきいき勤労財団  
神戸市シルバー人材センター

〒651-0096 神戸市中央区雲井通5丁目3-1 (サンバル10階)

●東部センター／857-3601 ●西区センター／993-0066

●中部センター／521-8000 ●北区センター／596-3181

●西部センター／621-6880 ●本 部／252-0316

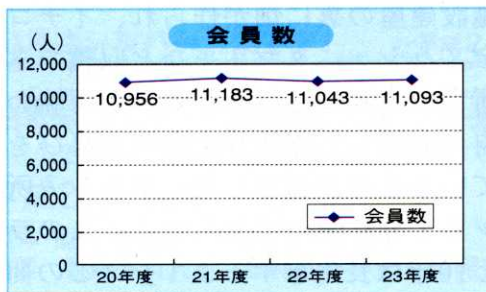
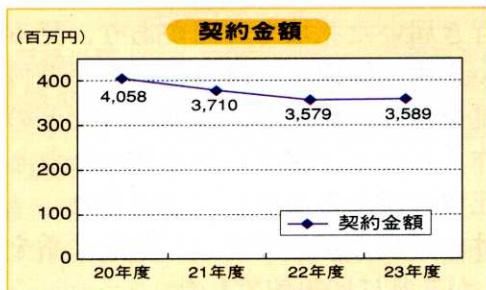
電話番号はおかけ間違いのないようお願いします

ホームページ <http://www.kobe-sjc.or.jp>

## 平成23年度事業実績

神戸市シルバー人材センターは、創立以来、高齢者への就業機会の提供と生きがいづくりを目的に、積極的な就業開拓と会員数増大に努めてきました。世界的な不況の影響を受け、平成20年度から3年連続で事業実績の落ち込みがありました。会員の就業先での評価と全センターでの受注拡大の取組みにより、平成23年度の事業実績は、昨年度と比較して契約金額、就業率、会員数とも上昇に転じました。

今後とも「就業開拓の推進」「地域に密着した事業の展開と自主事業の開発」「会員の確保と技能の向上」「安全・適正就業の推進」を進めていきます。皆様も就業や講習会への参加と共に、お住まいの地域などでシルバー人材センター事業のPRや自らによる就業場所の開拓をお願いします。 ※詳しくは近々シルバー人材センターHPに掲載します。



### 配分金支払日のお知らせ

| 7月分      | 8月分      | 9月分       | 10月分      | 11月分      |
|----------|----------|-----------|-----------|-----------|
| 8月15日(水) | 9月18日(火) | 10月15日(月) | 11月15日(木) | 12月17日(月) |



# 『カルム箕谷／なごみ介護センター』で 生き生き活動



今回ご紹介する職場は、神戸電鉄箕谷駅より428号線沿い徒歩約10分程のところにある落ち着いた2階建ての介護施設、医療法人社団「じよわかい恕和会」が運営するカルム箕谷／なごみ介護センターです。この施設では、グループホームに18名の方が入居され、約100名の方がデイサービスを受けておられます。

こちらでは、土をつくり、種を蒔き、育て、収穫し、食べ、保存すると言った一連の園芸活動の中に、私たちの暮らしに欠かせないさまざまな生活要素があると同時に、うつくしい、きれい、懐かしい、悲しい、おいしい、よい香り、いい手触りなど、五感に訴えるものが多く含まれているこの園芸療法を積極的に取り入れ、高齢者や障害者の方々の心や体のリハビリ、社会復帰、生きる力の回復などに役立てるために活動されています。この施設にシルバー会員1名が就労し、施設の方々から親しまれ、楽しく仕事をしています。この度、施設を訪問し、顧問の梶本様、会員の角崎さんにお話を伺いました。



ご自慢の庭園の前で



園庭道煉瓦



入所者による楽しいイチゴ摘み

施設建屋の左側には黄色いバラがフェンスいっぱい咲き乱れ、フェンスの扉を開けるとレンガが敷き詰められた道の両側には、手入れの行き届いた花壇や庭園があり、見る人の眼を休ませてくれています。庭園は、離宮公園とか万博公園の日本庭園に何回も足を運び、研究し、作り上げたとのこと。また、藤の蔓で鹿を作られたり、ブランコを作られたり、想像豊かな作品をその花壇に添えるなどして工夫され、「入所者の方々が喜んで頂ければ生きがいです。」と熱く話をされていた会員の角崎さんが非常に印象的でした。

その花壇を進むと施設建屋の裏に畑が作られ、イチゴ、スナップエンドウ、ラディッシュ、タマネギなど収穫できる作物を作っており、入所者の方々にも収穫する喜びを味わってもらい、また朝食に自ら収穫した作物等を食べる喜びを味わって頂けるようにしているとのことでした。また、入所者とのコミュニケーションも十分に図っておられ、「このラディッシュ食べたら、あと10年は長生きするよ!」「この間はエンドウ食べたし、今回ラディッシュ食べたから105歳まで長

生きできるな(笑)」なんて話もされ、入所者の方々からの信望の厚さをお話から伺い知ることができました。

梶本顧問からは、「ヘルパーの資格を取って、うちの職員になってもらいたくらいです。」と話され、角崎さんへの期待の大きさを感じました。また、角崎さんは「いいところ紹介して頂きやりがいがあります。」と話していました。施設が取り組んでおられるこの園芸療法とそれを支える情熱的な角崎さんの仕事にエールを送り、施設をあとにしました。

